令和6年度第1回岡崎市民病院地域医療支援委員会 会議録	
開催日時	令和6年4月25日(木) 午後2時から午後2時40分
開催場所	岡崎市民病院 第1・2・3会議室
委員	(出席者) 12名 小林 靖、田那村 収、升川 浩子、織田 盛久、高村 俊史、鈴木 正博、片岡 博喜、金澤 一徳、永田 昌子、志賀 由香、中根 敏裕、鳥居 行雄 (欠席者) 1名 山下 晋
事務局	地域医療連携室管理監 岡田 幸男、副室長 石山 聡治、副室長 蟹江 尚美 室長補佐 酒井 玲、主事 寄田 和加奈
会議次第	1 院長挨拶 2 議題 (1) 令和5年度地域医療支援病院業務実績について (2) 患者サポートセンターについて
傍聴者	1人
議事要旨	<p>1 院長挨拶 (内容省略)</p> <p>2 議事 (議長) 議題1 令和5年度地域医療支援病院業務実績について (事務局) (資料1)</p> <p>令和5年4月から令和6年2月までの紹介率の平均は、75.73%となっており、令和4年度より増加している。これは、令和5年度のクリニック訪問数が97件、広報誌配布を含めると合計356件と増えており、クリニックとの連携が推進されたためと考える。逆紹介率は、107%で、前年度より増加した。これは外来のスリム化のため、逆紹介の推進を医局会で周知することで理解が深まったためと考える。地域医療支援病院承認要件である紹介率65%以上、逆紹介率40%以上に関しては、条件を満たしている。</p> <p>令和5年度は紹介率80%以上、逆紹介率100%以上を目標としていたが、紹介率は目標に近づきつつあり、逆紹介率は目標を達成できている。12月から1月にかけて、救急搬送の件数は増加傾向にあったが、極端に紹介率が下がることはなかった。</p> <p>前回の質問にあった「救急救命センターにおける紹介患者の割合」について、令和5年4月から令和6年2月までの救急救命センターの全患者数は、20,656名、うち紹介患者数は4,352名で、全患者数の21%が紹介患者だった。 (資料2)</p> <p>開放病床利用件数について、小児病棟は常に開放病床3床を使用しており、稼働率は62.1%と、60%を維持している。神経伝導速度の共同利用については、1月より0になっている。これは、これまで利用していた愛知医科大学メディカルセンターが自院にて検査可能になったことから、1月より当院での利用がなくなったことに起因する。 (資料3)</p> <p>救急医療の提供実績はわずかに増加がみられるが、大きな変化はない。令和5年度も夏季と冬季に搬送患者数が増加傾向となっており、特に冬季は循</p>

環器、神経内科の患者の増加がみられる。病床稼働率も、冬季は 4.4%の上昇があった。

ドクターカーの出動回数が減少しているのは、ドクターカー要請基準が変わったことが大きな理由である。DMAT 車両の出動回数の減少は、コロナ禍で搬送が増加していたものが、通常に戻ったことによるものである。

(資料 4)

地域医療連携室では、「地域医療支援病院講演会」を 1 か月に 1 回定期開催しており、令和 5 年度は合計 18 回開催した。令和 5 年 12 月からリアルタイム配信を録画配信に変更、翌日から YouTube にてオンデマンド配信を行っている。また、より多くの方が参加できるようこの 4 月から、オンデマンド配信の視聴期間を 1 週間から 2 週間へ延長し、参加者へのアンケートを導入した。参加者のニーズを把握し、少しでも多くの方に視聴していただけるよう検討していきたい。

(資料 5)

診療に関する諸記録の閲覧実績について、医師への問い合わせ件数に大きな変化はない。過去の手術や治療内容等が主な問い合わせ内容である。

(資料 6)

患者相談の実績数に大きな増減はないが、がん相談件数が減少傾向にある。当院は、市民の皆様にとって、第 3 次救急病院という印象が強く、がん診療連携拠点病院であることの周知が足りていないことが理由として考えられる。がんの最先端治療及び緩和ケアセンター等、当院の取り組みを市民にアピールし、加えてクリニックとの連携強化が必要である。

(資料 7)

退院調整をし、退院した患者数について、脳神経内科と整形外科が多いのは、地域連携パスを活用しているためである。退院調整数は、前年度よりやや減少しているが、これは、退院調整が不要なケースがあること等が理由だと考える。高齢者や若年単身世帯の増加という近年の社会情勢から、退院調整が困難で退院に至らないケースが増加している。クリニック訪問でも、病気のことだけでなく、経済的なことや家族支援についての相談が増えてきたというご意見もいただく。当院だけでなく、地域全体で支援していくことが必要である。

退院カンファレンスは、わずかに増加。理由としては、社会背景が多様になってきていることや、コロナ禍において面会制限があったことで、自宅に退院したいというケースが増え、転院ではなく自宅に帰る方法の検討が必要だったためだと考える。

(資料 8)

地域連携クリニカルパスの新規登録件数は、わずかに増加。脳卒中・大腿骨地域連携パスの登録件数が多く占めている。次に多いのが CKD 連携パスであるが、糖尿病連携パスと併せ、藤田医科大学岡崎医療センター、愛知医科大学メディカルセンター、当院の 3 病院の共通パスを使用し、地域の医院が連携しやすい環境を整えている。また、胃がん、大腸がん、乳がん、肝がん、前立腺がんのパスについても、運用を進めている。

(委員 A)

紹介患者数が着実に増加していることは、地域医療支援病院の本来の姿に近づいているようで大変喜ばしい。2 月の紹介率が 79.42%ということで、地域医療支援病院の「紹介率 80%以上」の承認要件に近づきつつある。ぜひ紹介率 80%以上をコンスタントに維持できるよう、引き続き地域との連携強化を図っていただければ、地域医療支援病院としての岡崎市民病院の評価が

益々高くなるのではないかと思う。

(議長)

積極的にクリニック訪問等をしながら紹介率 80%以上をクリアできるよう努めていきたい。

(議長)

議題2 患者サポートセンターについて

(事務局)

まず、患者サポートセンター立ち上げの経緯について説明する。当院を受診し、入院することになった患者は外来で医師や看護師から入院説明を受ける。しかし、緊張や初めての入院で、中には内容を十分に理解できないまま入院当日を迎える患者がいたり、病棟看護師に関しても、入院患者に対する書類の説明やスクリーニング等により業務過多になったりすることがあった。そこで、2020年に看護局が中心となり入院支援部門を立ち上げ、その年6月に入院説明コーナーが開設された。入院を予定している患者が入院生活や入院後の治療過程をイメージし、安心して医療を受けられるよう、入院中に行われる治療の説明や、入院生活に関するオリエンテーション、スクリーニング等を入院前の外来において実施し、支援することを目的に活動を開始した。PFMの考え方にに基づき、また、相談部門一元化の必要性から、2022年患者サポートセンターWGを立ち上げ、2024年の開設を目指し、患者サポートセンターの設計や業務等の検討を重ねた。

2024年1月に開始した患者サポートセンターの工事は、6月末で全て完了予定である。待合、カウンター6つ、患者情報コーナーは完成しており、カウンターで実施できる患者相談窓口、院内コンサルテーション予約等は4月から既に開始している。完成後はサポートセンター内に12室の相談室が設けられ、個別の相談対応が可能となる。

次に組織について説明する。令和6年3月までは、地域医療連携室の中に、医療福祉相談係、退院支援係、地域連携係の3係が配置され、相談業務や退院支援としてクリニックとの連携業務を行っていたが、患者サポートセンターの立ち上げに伴い、4月からは、地域医療連携室をクリニックとの連携に特化した組織とし、医療福祉相談や退院支等は患者サポートセンターへ移行した。患者サポートセンターは、患者相談係、入退院支援係、調整係の3係で業務を行っている。

基本方針として、「岡崎市民病院で治療を受ける患者、家族を多職種が共同し、一元的、また多目的にサポートする」こと。運営方針として、「入院前に様々な基本情報を把握し、問題点を抽出し、安心して入院でき、かつ早期退院できるように支援する」、「困りごとなどの各種相談について一元化に支援する」、「他科受診における診察予約業務及び検査予約業務を請け負い、スムーズに予約ができるように支援する」の3点を掲げた。

組織について、患者相談係は、医療福祉相談、患者相談窓口、がん相談支援センター、認知症疾患医療センターがある。医療福祉相談では、医療福祉の相談や身体障がい者手帳の申請説明、医療安全の相談窓口等の業務があり、患者相談窓口は、紹介状なく受診した方や電話での受診相談含め、様々な相談の窓口となっている。入退院支援係では、入院説明や休薬説明等の入院支援と、入院患者の退院や在宅の支援、調整業務等を行っている。

患者サポートセンターには看護師や社会福祉士等に加え、薬剤師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、管理栄養士が兼務という形で配置され、多職種が共同して患者とその家族を支援する。今後も岡崎市民病院で治療を受ける患者や家族を他職種が協働し、一元的、また多目的にサポートしていき

<p>たい。</p> <p>(委員B)</p> <p>サポートセンターは1日最大30名の予約制と伺ったが、どのように予約をとるのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>1日最大30名の予約制というのは、入院支援の予約となる。外来で入院が決まった時点でその場で説明を受けてお帰りになる患者もいらっしゃるが、後日来院し、説明を聞きに来る患者もおり、そのための予約である。</p> <p>(議長)</p> <p>他に意見及び質問がないことを確認する。</p> <p>本日の提出議案は全てご承諾いただいた旨を報告し、会議の終了を宣する。</p> <p>次回は令和6年7月25日木曜日14時からを予定している。</p> <p style="text-align: right;">(以上)</p>
--